



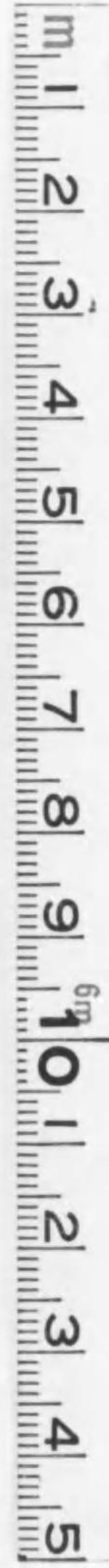
特279

特279-14



14

考古圖集

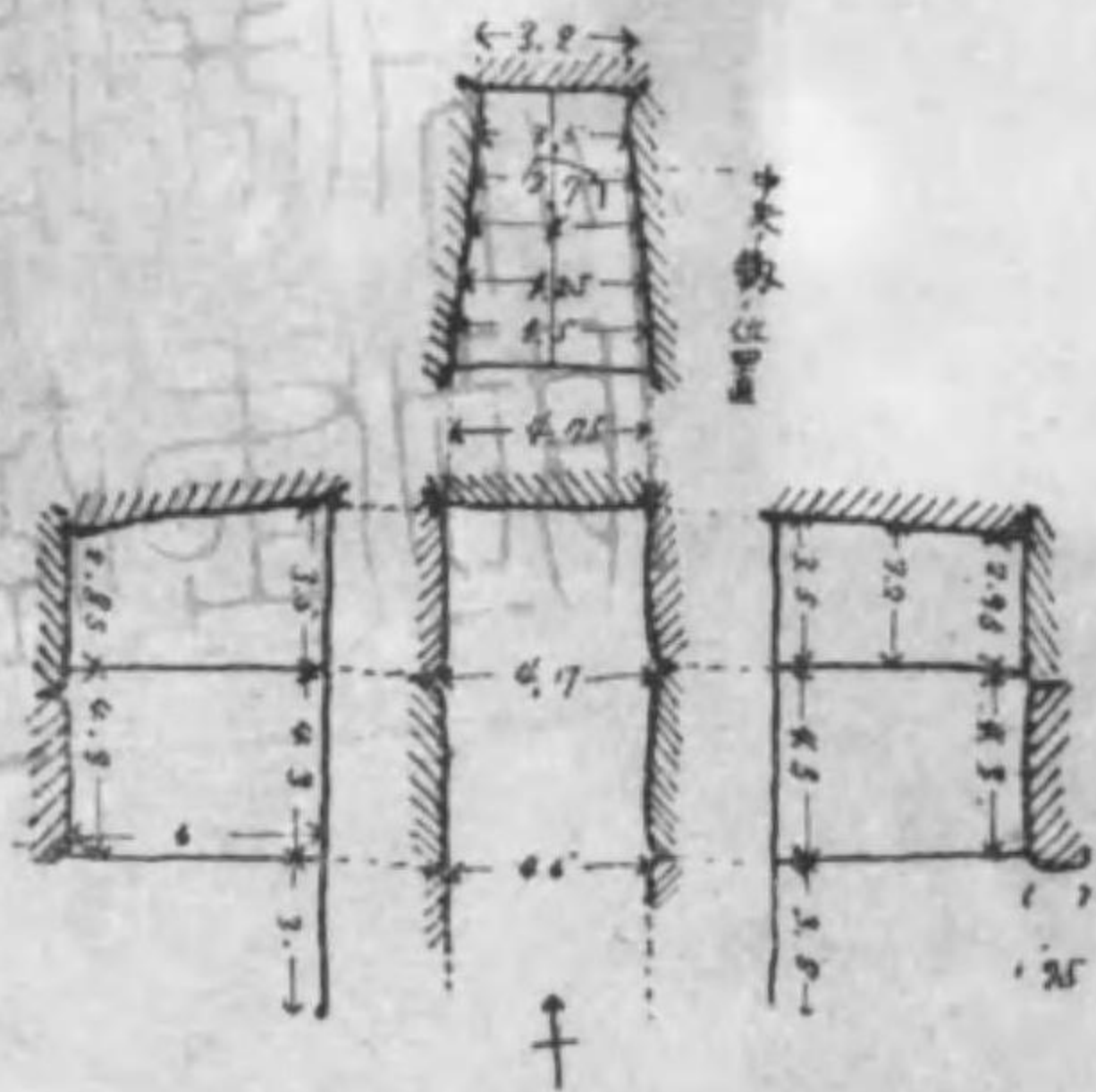


始



考古圖集 第二集解説

○越中大境の洞窟(2) 洞窟は入口に於いて幅五十二尺・高二十尺・奥行百十四尺、内に白山社あり。大正七年六月、數尺の積土を除かんとして、石棒・土器・人骨を發見せり。圖は工事後の窟内を示す。



(常陸吉田古墳) 實測圖 (和吉田千和氏調査)

○常陸吉田古墳石槨彫刻圖 東茨城郡吉田村東組加藤徳之助宅地内に一圓墳あり。凝灰岩の切石を以て構へし横穴式石槨あり。圖は奥壁にあるもの、左端の消火器式埴輪に類せるものは、恐らく角装太刀を袋に納めしものなるべく、その右にあるは鋒、刀子、及羽を上にして矢を插める物を示すものなり。

(正誤) 天井石の厚の一九

一・二五の誤

大正 9.5.5 内交

○朝鮮黃海道殷栗郡北部面雲化洞に於ける露出石槨(1) 朝鮮に於いて撐石コシタシと呼ばれる一種の露出石槨なり。圖は此種石槨の最大なるもの、側面を示せるもの、全部花崗岩より成り、天井石の長徑二十八尺餘あり。

○那智發掘彌勒像 朝鮮式推古佛(金銅)にして、廣隆寺、中宮寺、野中寺、朝鮮博物館にある彌勒像と類を同じうす。高一尺三分、臺座下部を缺けり。

○支那發掘女子土偶 唐代女子の風俗以て見るべし。

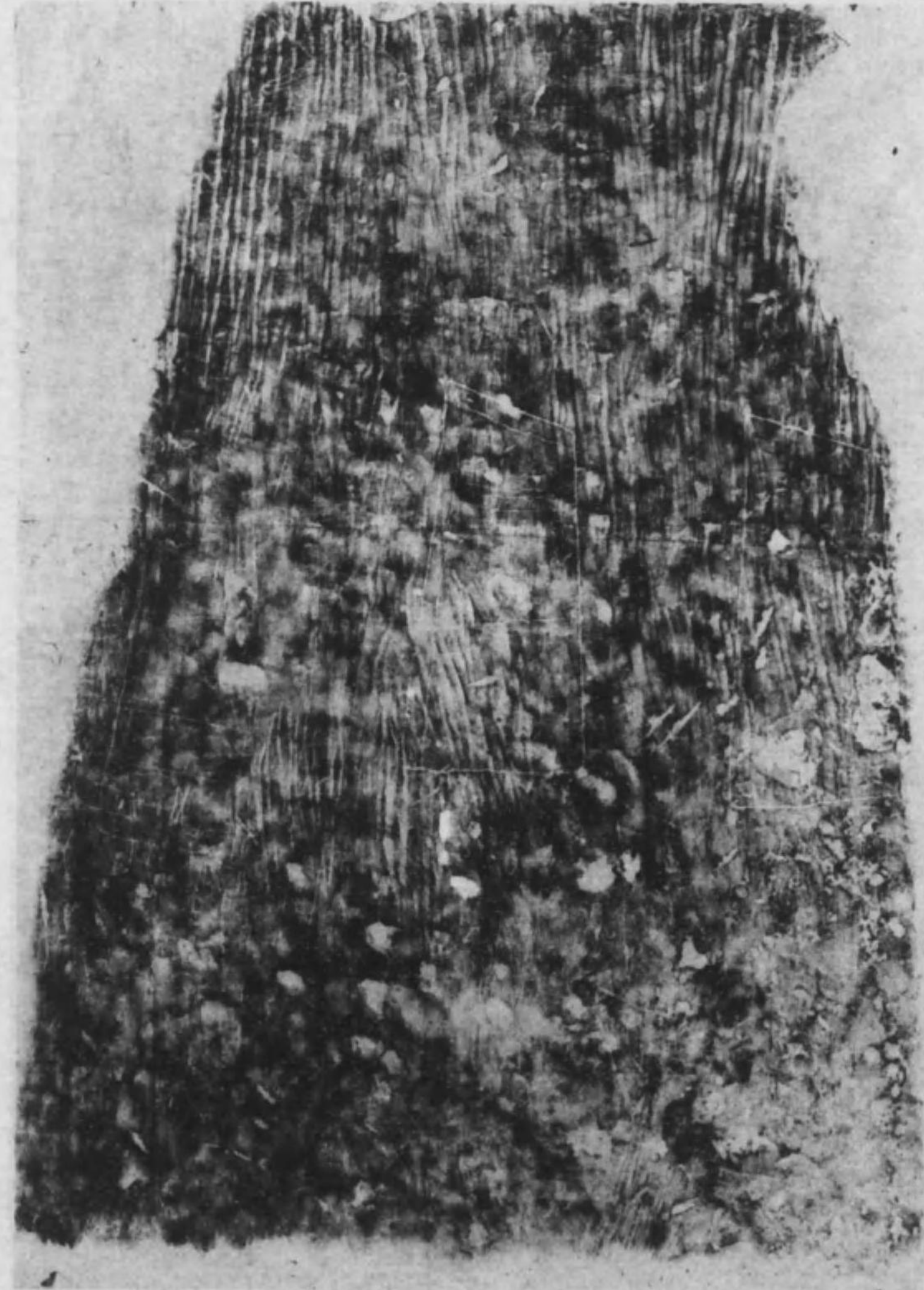
○山城醍醐三寶院藏瑞花鴛鴦五花鏡 火中せしを以て、文様稍々漫漶せしも、鏡面の彌陀三尊像に至つては、頗る見るべきものあり。藤原時代の傑作たらん。

○大泉坊藏經宮(2) 蓋表を示せしものなり。宮の内面に、「延祐二年杭州油局棟梁禪主橋金家造」の黒漆銘あり。

(2) 窟洞の境大中越



常陸吉田古墳石槨彫刻拓本



朝鮮雲化洞撐石式石槨



像薩菩勒彌掘發智那伊紀

(藏館物博室帝京東)



第二集

像薩苦勒彌掘發智那伊紀

(藏館物博室帝京東)



第二集

支那發掘子女土偶

(東京帝國博物館藏)



支那發掘子女土偶

(東京帝國博物館藏)



(1) 鏡藏院寶三翻醍城山



(2) 鏡藏院寶三翻醍城山



(寶國) 宮經藏坊泉大前筑



第二集

特279
14

大正九年四月三十日印刷
大正九年五月二日發行

不許
複製

編輯者

東京市下谷區上野區町八十八番地
會

代表者

高橋健白

印刷者

大塚彩繪

印刷所

東京市下谷區中區町七十一番地
堂

發賣所

東京市本郷區西區町三十四番地
堂

終

